

(4)岡山商科大学

① 開講期間・試験期間・授業時間

開講期間	前期	2024年4月8日	～	2024年7月25日
	後期	2024年9月13日	～	2025年1月14日
試験期間	前期	2024年7月30日	～	2024年8月5日
	後期	2025年1月20日	～	2025年1月24日
授業時間	1限	9:00	～	10:30
	2限	10:50	～	12:20
	3限	13:10	～	14:40
	4限	15:00	～	16:30
	5限	16:50	～	18:20

② アクセス(案内図)



【交通アクセス】

◎JR岡山駅よりバス利用 所要時間 15分, バス便多数あり

対象路線: 国立病院線, 免許センター線, 辛香線, 半田山ハイツ・津高台団地線

◎山陽自動車道 岡山 I.C.より車で5分

CAMPUS MAP



- ① 1号館 (教務課・学生課・入試課、研究室)
- ⑤ 5号館
- ⑦ 7号館 (研究室・教室)
- ⑧ 8号館 (研究室・教室)
- ⑨ 本館 (事務局 (総務企画課・会計課)、法人事務局)、研究室
- ⑩ 図書館 (図書課・産学官連携センター・
社会総合研究所・孔子学院)
- ⑪ 体育館 ⑫ 学生会館 (食堂、地域交流談話室)
- ⑬ 第2学生会館 (部室)

- ⑭ 第10学生会館 ⑯ 野球グラウンド
- ⑰ 野球屋内練習場 ⑱ サッカーグラウンド
- ⑲ 剣道・卓球場 ⑳ 弓道場 ㉑ 中庭
- ㉒ 井尻記念館 (キャリアセンター・大学院研究室・
講義室、50周年記念室
同窓会事務局、売店)
- ㉓ 第5学生会館 ㉔ 第6学生会館 ㉕ 第9学生会館

③ 担当窓口

教務課	
所在地:	岡山市北区津島京町2-10-1 1号館1階
電話:	086-256-6653

④ 開講大学から単位互換履修生への連絡事項

・ 履修申込期限

前期受付:2024年3月4日(月)～3月29日(金)
後期受付:2024年7月1日(月)～9月11日(水)
ただし、所属大学によって提出期間が別に定められている場合は、その指示に従ってください。

・ 履修手続

対面授業科目を履修する方

- 以下の印刷物を配付します。対面授業科目の履修者は、必ず受け取りに来てください。また、その際、講義室の場所をお知らせしますので、初回授業までに時間の余裕を持って教務課に来てください。
 - ① 学生証(単位互換履修生証)
 - ② OSU-Port パスワード
 - ③ 学生手帳
- 自動車通学を希望する場合は、許可が必要ですので申し出てください。(駐車料金有料)

・ 施設利用

岡山商科大学在学学生と同じ扱いとします。
図書館・学食等が利用可能です。図書館の利用方法は、図書館カウンターで、単位互換履修生証を提示してお尋ねください。

・ 特記事項

振替講義日(下記の日は月曜日の授業を行います)
前期:5月1日(水), 7月16日(火), 7月25日(木)
後期:9月24日(火), 10月17日(木), 10月30日(水), 1月14日(火)

⑤ 各科目のシラバス

大学ホームページ シラバス掲載URL

https://webclass.osu.ac.jp/webclass/ip_mods.php/plugin/syllabus/search

・対面授業科目

対面授業		04001	
授業科目名: 行政法 I		担当教員氏名: 伊藤 治彦	
Administrative Law 1			
履修年次 2~4	2単位	前期	1コマ
<p>【授業の目的】 行政法の基本原理(法律による行政の原理、行政法の法源、公法上の法律関係等)、行政組織法、公務員法について学んでいく。 1 行政法の体系、基本原理を理解する 2 国の行政組織のしくみや行政組織相互の関係について理解する 3 わが国の公務員制度について理解する。</p>			
<p>【授業内容】 行政法の基本原理</p> <p>(1) 行政の概念 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p> <p>(2) 行政法の体系 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p> <p>(3) 法律による行政の原理 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p> <p>(4) 行政法の法源 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p> <p>(5) 行政上の法律関係 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p> <p>行政組織法</p> <p>(6) 行政組織改革概説 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p> <p>(7) 行政主体・行政機関・行政庁 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p> <p>(8) 内閣・内閣官房・内閣府 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p> <p>(9) 内閣の統轄下にある行政組織 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p> <p>公務員法</p> <p>(10) 概説 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。</p>			

(11)種類

予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく
復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。

(12)公務員の権利とその制限

予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく
復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。

(13)公務員の義務

予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく
復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。

(14)不利益処分とその救済

予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく
復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。

(15)まとめ

予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく
復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。

(予習・復習)

授業計画で示した各回ごとの予習復習の指示に従って、それぞれ2時間以上行うこと

(注意事項)

授業中の私語、無断退出は厳禁、出席に関する不正行為は厳罰に処する。授業中に配ったプリントは、次回から全て持ってくること。六法も毎回持参すること

【テキスト】

事例で考える行政法(改訂新版) 横山信二・廣瀬肇 編著 嵯峨野書院

【参考図書】

【成績評価の方法】

試験: 15回目の講義日にまとめのテストを行う(70%)

小テスト: 適宜1回以上行う(20%)

受講態度:(10%)

対面授業				04002
授業科目名: 行政法Ⅱ			担当教員氏名: 伊藤 治彦	
Administrative Law 2				
履修年次 2~4	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 本講義は、行政作用法の中でも行政計画、行政立法、行政行為、行政強制、行政罰について考察するものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行政の一連の活動の形成過程を理解する。 2 行政作用の種類及び各行政作用の特色について理解する。 3 行政作用に関する公務員試験の基礎的な問題が解けるようになる。 				
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行政作用法概説 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 <p>行政計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 行政計画の種類 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 3 計画策定手続 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 <p>行政立法</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 法規命令 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 5 訓令・通達 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 <p>行政行為</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 概念、効力 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 7 行政行為の種類 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 8 行政裁量 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 9 行政行為の付款 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 10 瑕疵ある行政行為 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 11 行政行為の取消と撤回 予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく 復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。 				

行政強制

12 代執行・執行罰・直接強制

予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく

復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。

13 即時強制と行政調査

予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく

復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。

行政罰

14 行政刑罰・秩序罰・その他の制裁

予習 当該項目に該当する教科書の箇所をよく読み、不明な点をチェックしておく

復習 授業で配布されたプリントと教科書を読み返し、理解を深める。

15 まとめ

予習 授業で配布されたプリントを整理しておく

復習 教科書やプリント及びノートを見て全体を要解していく

(予習・復習)

授業計画で示した各回ごとの予習復習の指示に従ってそれぞれ2時間以上行うこと。

(注意事項)

私語、無断退出は厳禁。出席に関する不正行為は厳罰に処する。

【テキスト】

事例で考える行政法(改訂新版) 横山信二・廣瀬肇 編著 嵯峨野書院

【参考図書】

【成績評価の方法】

試験:15回目の「まとめ」で行う(70%)

小テスト:適宜最低1回は行う(20%)

受講態度:(10%)

対面授業				04003
授業科目名:民法概説			担当教員氏名:倉持 弘	
Introduction to Civil Law				
履修年次 1~4	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 この授業は、これまで法律学を学んだことのない学生を対象に、民法(財産法)をおおまかに解説するものである。内容的には、主に、不動産の売買や金銭の貸借などの契約について解説する。 受講生が受講後に次のようなことができるようになること。 1. 契約の締結、履行の流れをおおまかに理解し、また契約が履行されなかった場合の法的処理についてもおおまかに理解できている。 2. 未成年者のような判断能力が不十分な者の契約締結についての法的規制について例をあげて説明できる。 3. 代理人による契約締結について例をあげて説明できる。 4. 不動産登記制度について例をあげて説明できる。</p>				
<p>【授業内容】 原則として対面で授業を行うが、オンライン授業となった場合には講義動画を YouTube に掲載する。 対面授業・オンライン授業のどちらでも、授業前に講義スライドを WebClass に掲載するので、予習としてそれを読むとともに、自分のPCにダウンロードするなどして授業時には手元に用意しておくこと。ほぼ毎回小テストを行うが、対面授業の場合でも WebClass で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、「民法は人生の必修科目」 事前学習:講義スライドを読む。 事後学習:民法について考える。 2. 民事と刑事、法規定の構造 事前学習:講義スライドを読む。 事後学習:民事法と刑事法の違いについて考える。 3. 事故の場合の損害賠償(不法行為) 事前学習:講義スライドを読む。 事後学習:損害賠償制度について考える。 4. 契約とはどのようなものか、売買とはどのようなものか 事前学習:講義スライドを読む。 事後学習:契約について考える。 5. 財産権(売買される対象) 事前学習:講義スライドを読む。 事後学習:物権と債権の違いについて考える。 6. 契約の締結 事前学習:講義スライドを読む。 事後学習:意思と表示の不一致について考える。 <p>補講. 六法の見方 法学科以外の学生は講義動画を視聴してレポートを提出すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 詐欺・強迫、消費者契約の規制 事前学習:講義スライドを読む。 事後学習:消費者契約について考える。 8. 代理人による契約の締結 事前学習:講義スライドを読む。 事後学習:表見代理について考える。 9. 未成年者の保護 事前学習:講義スライドを読む。 事後学習:未成年者は具体的にどう保護されているのか考える。 				

<p>10. 所有権の移転、不動産登記 事前学習: 講義スライドを読む。 事後学習: 不動産登記制度について考える。</p> <p>11. 契約が履行されないとき(強制履行、損害賠償、契約解除) 事前学習: 講義スライドを読む。 事後学習: 契約が履行されないときに採ることができる法的手段について考える。</p> <p>12. 慣習・任意規定による契約内容の補充、同時履行の抗弁、買主の追完請求権 事前学習: 講義スライドを読む。 事後学習: 任意規定・強行規定について考える。</p> <p>13. 貸し借りの契約(賃貸借・消費貸借) 事前学習: 講義スライドを読む。 事後学習: 利息に関する法規制について考える。</p> <p>14. さまざまな弁済方法、保証 事前学習: 講義スライドを読む。利息計算。 事後学習: 保証について考える。</p> <p>15. 担保(保証、抵当) 事前学習: 講義スライドを読む。 事後学習: 担保について考える。</p> <p>16. 最終試験 最終試験は原則として筆記式で行う。それができない場合は WebClass で行う。</p> <p>* 六法は指定のものでも構わないが、改正前の規定なども掲載されている書籍の六法が望ましい。</p> <p>(予習・復習) 予習1時間: 講義スライドを読み、意味・読みのわからない語句を調べる。 復習3時間: 講義スライドを読み直して、各回の事後学習について、自分で考えること。 WebClass の自習課題に取り組むこと。</p> <p>(注意事項) ・出席登録は WebClass で行うのでPCまたはスマートフォンを持参すること。また、授業時間中にも WebClass で小テストを行うので、PCを持参するのが望ましい。 ・自習課題を WebClass で提出する。一問一答式なので、その場で正誤や解説が表示される。 ・講義時間の冒頭で復習テストを WebClass で実施する。終了後に得点が表示されるように設定を変更するので、それを見て復習すること。 ・対面授業の場合でも講義動画を YouTube に掲載するので、欠席者は必ずそれを視聴して、上記の自習課題・復習テスト(次回に紙で提出のこと)に取り組むこと。 ・最終試験は、筆記式・持込不可で行う。</p>
<p>【テキスト】 講義スライド、自習課題を WebClass に掲載する。 教科書 http://kuramochi.o.oo7.jp</p>
<p>【参考図書】 ・民法への招待[第6版] 池田真朗／著 税務経理協会 ・ポケット六法 令和6年版 佐伯仁志／編集 大村敦志／編集 荒木尚志／編集 有斐閣</p>
<p>【成績評価の方法】 試験: 最終試験。筆記式、持込不可。(40%) 小テスト: 講義時間冒頭で復習テストを行う。講義時間中に小テストを行う。(60%)</p>

対面授業				04004
授業科目名: 民法総則			担当教員氏名: 倉持 弘	
Civil Law				
履修年次 2~4	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 公務員(行政職)試験などを受験しようという学生を想定して、民法の総則編について解説する。自習課題・小テストなどは公務員試験の過去問に類する問題を出題する。 受講生が受講後に次のようなことができるようになること。 1. 法律行為とはどのようなものか、例をあげて説明できる。 2. 行為能力の制限の制度について例をあげて説明できる。 3. 代理について例をあげて説明できる。 4. 時効制度について例をあげて説明できる。</p>				
<p>【授業内容】 対面授業・オンライン授業のどちらでも、授業前に講義スライドを WebClass に掲載するので、予習としてそれを読むとともに、自分のPCにダウンロードするなどして授業時間には手元に用意しておくこと。また、ほぼ毎回 WebClass 上で予習課題、小テストを課す。 オンライン授業の場合、講義動画を YouTube に掲載する。</p> <p>この講義は5編構成の民法の第1編「総則」の部分解説するものであるが、総則編には民法全体に共通して適用される規定が置かれているので、民法全体をある程度理解した上で履修することが望ましい。なお、総則編中の法人については『会社法概説』の講義で、取得時効については『物権総論』の講義で扱われる。</p> <p>1. オリエンテーション、民法総則とは 事前学習:教科書第1章を読む。「民法概説」の復習(小テストで出題する)。 事後学習:パンデクテンシステムとはどういうものか。</p> <p>2. 人の出生と死亡、失踪宣告 事前学習:教科書第3章第1節を読む。 事後学習:失踪宣告の制度は何のためにあるか。</p> <p>3. 法律行為と意思表示 事前学習:教科書第6章第1節から第3節を読む。 事後学習:法律行為・意思表示とは何か。</p> <p>4. 意思と表示の不一致 事前学習:教科書第6章第3節から第4節を読む。 事後学習:意思と表示の不一致とはどういう問題か。</p> <p>5. 錯誤、詐欺・強迫 事前学習:教科書第6章第4節を読む。 事後学習:民法の詐欺取消しと消費者契約法による取消しの違い。</p> <p>6. 未成年者 事前学習:教科書第3章第2節第3節を読む。 事後学習:未成年者はどのように保護されているか。</p> <p>7. 成年の制限行為能力者、制限行為能力者の相手方の保護 事前学習:教科書第3章第3節を読む。 事後学習:成年後見にからむ諸問題。</p> <p>8. 中間試験、無効と取消し 事前学習:教科書第8章を読む。 事後学習:無効と取消しの異同。</p> <p>9. 代理の概略 事前学習:教科書第10章第1節第2節を読む。 事後学習:民法の代理とはどういうものか。</p>				

<p>10. 代理行為、代理権の濫用 事前学習:教科書第10章第3節を読む。 事後学習:代理行為の瑕疵、代理権の濫用とは何か。</p> <p>11. 無権代理、表見代理 事前学習:教科書第10章第4節第5節を読む。 事後学習:表見代理制度はなぜ必要か。</p> <p>12. 時効の概略 事前学習:教科書第12章第4節を読む。 事後学習:時効制度の意義。</p> <p>13. 消滅時効 事前学習:教科書第12章第2節を読む。 事後学習:消滅時効の起算点について考える。</p> <p>14. 取得時効・消滅時効に共通する原則 事前学習:教科書第12章第3節を読む。 事後学習:時効の完成猶予と更新について考える。</p> <p>15. 信義誠実の原則、条件・期限、物 事前学習:教科書第2章第3節、第9章、第5章を読む。 事後学習:信義誠実の原則について考える。</p> <p>16. 最終試験 最終試験は筆記式、持込不可で行う。それができない場合は WebClass で行う。</p> <p>* 六法は指定のものでも構わないが、2017年改正前の規定が掲載されている書籍の六法が望ましい。</p> <p>(予習・復習) 予習1時間:教科書該当ページを読み、予習課題に答えること。 復習3時間:教科書・講義スライドを読み直して、各回の事後学習について、自分で考えること。 WebClassの自習課題に取り組むこと。</p> <p>(注意事項) ・出席登録は WebClass で行うのでPCまたはスマートフォンを持参すること。 ・予習課題を WebClass で提出する。 ・自習課題を WebClass で提出する。一問一答式なので、その場で正誤や解説が表示される。 ・講義時間冒頭に復習テストを WebClass で実施する。解答期間終了後に得点が表示されるように設定を変更するので、それを見て復習すること。 ・対面授業の場合でも講義動画を YouTube に掲載するので、欠席者は必ずそれを視聴して、上記の自習課題・復習テスト(次回に紙で提出)に取り組むこと。 ・最終試験は、筆記式・持込不可で行う。</p>
<p>【テキスト】 (教材) 講義スライド、自習課題を WebClass に掲載する。 (教科書) 民法入門・総則[第5版補訂版] エッセンシャル民法1 永田眞三郎／著・文・その他 松本恒雄／著・文・その他 松岡久和／著・文・その他 横山美夏／著・文・その他 有斐閣</p>
<p>【参考図書】 ポケット六法 令和6年版 佐伯仁志／編集 大村敦志／編集 荒木尚志／編集 有斐閣</p>
<p>【成績評価の方法】 試験:最終試験。筆記式、持込不可。(60%) 小テスト:講義時間冒頭で復習テストを実施する。授業計画第8回の中間試験も、成績評価では復習テストの1つとして扱う。(30%) その他:WebClassで予習課題を提出する。(10%)</p>

対面授業				04005	
授業科目名: 刑事政策			担当教員氏名: 白井 諭		
Criminal Policy					
履修年次 2~4	2単位	前期	1コマ		
<p>【授業の目的】 本科目は法学部の専門科目である。犯罪の原因やそれへの対応のあり方を学ぶことで、とかくセンセーショナルになりやすい犯罪と刑罰をめぐる議論を理性的に見直してもらうとともに、「〇〇すべきだ」とか「××してはならない」といった形(規範)に終始しがちな法律の議論に新たな視点を吹き込んでいきたい。 (1) 社会や刑事司法に対する関心・問題意識を持ち、それに従い自主的に勉学を進めることができる。[CP/DP6 意欲・責任感] (2) 犯罪対応をめぐる現状とそれに関する理論の概要を他者に説明することができる[DP/CP1 専門知識] (3) 刑事司法をめぐる問題点を発見し、様々な利益を考量しながらそれを解決することができる[DP/CP3 思考力、DP/CP4 判断力] (4) 社会で起こっている刑事事件につき、意見を理性的に述べるができる[DP/CP3 思考力、DP/CP4 判断力、DP/CP6 意欲・責任感]</p> <p>【授業内容】 《授業方法》 * 受講者にはあらかじめレジュメと講義ビデオに目を通してもらう。授業時間の前半部分で問題に取り組んでもらい、後半部分で問題に関する解説をする。対面での講義(問題の解説)を予定しているが、状況に応じて(例えば受講者が収容可能人数を超えた場合や構内への立入が制限された場合)、zoomを用いて(又は zoom と対面とで並行して)開講することがある。</p> <p>《授業計画》 「刑事政策」は犯罪への対応のあり方を検討することを目的としている。社会で発生した犯罪に対しては、様々な学問分野の知見を参考にしながら犯罪の原因を突き止め、それに適した対応をとることが求められる。しかし他方で、犯罪に対応していくためには、「基本的人権の保障」をはじめとする法原理を尊重する必要があることも忘れてはならない。 この講義では、さまざまな犯罪を取り巻く諸事情(犯罪の原因)を検討したうえで、犯罪への対応のあり方を議論していく。とかくセンセーショナルになりやすい犯罪と刑罰をめぐる議論を理性的に見直してもらうとともに、「〇〇すべきだ」とか「××してはならない」といった形(規範)に終始しがちな法律の議論に新たな視点を吹き込んでいきたい。</p> <p>第1回 「刑事政策」とは何か <参考資料> 刑事政策学第1講第1節-第2節・第2講第1節-第2節、犯罪学講義 pp.1-9 <事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること <事後学修> 「刑事政策」と刑法・刑事訴訟法などの違いについて、考えをまとめておくこと</p> <p>第2回 現在の犯罪情勢と治安 <参考資料> 刑事政策学第1講第3節・第2講第3節、犯罪学講義 pp.10-24 <事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること 現在の犯罪情勢について、情報を収集すること <事後学修> 現在の犯罪情勢について、考えをまとめておくこと</p>					

第3回 犯罪の原因 —伝統的な犯罪学と犯罪防止に向けた社会の役割—

<参考資料> 刑事政策学第2講第4節-第5節、犯罪学講義 pp.79-97,173-201

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
犯罪が発生する原因について、情報を収集すること

<事後学修> 犯罪が発生する個人的な原因について、考えをまとめておくこと

第4回 刑罰の種類と目的

<参考資料> 刑事政策学第3講第1節・第3節、犯罪学講義 pp.111-113、刑法9条以下

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
刑罰の種類について、情報を収集すること

<事後学修> 刑罰の目的について、考えをまとめておくこと

第5回 刑事司法の流れと現状

<参考資料> 刑事政策学第1講第3節・第5講、犯罪学講義 pp.98-110、

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
刑事司法の流れについて、情報を収集すること

<事後学修> 刑事司法全体の在り方について、考えをまとめておくこと

第6回 刑罰の歴史と死刑制度

<参考資料> 刑事政策学第3講第2節・第4節、犯罪学講義 pp.113-117

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
死刑制度について、情報を収集すること

<事後学修> 死刑制度の問題点について、考えをまとめておくこと

第7回 自由刑の問題点

<参考資料> 刑事政策学第3講第5節-第6節、犯罪学講義 pp.117-123

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
懲役刑・禁錮刑・拘留刑について、情報を収集すること

<事後学修> 自由刑の特徴と問題点について、考えをまとめておくこと

第8回 犯罪者処遇の基本原則

<参考資料> 刑事政策学第6講第1節、犯罪学講義 pp.143-145

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
犯罪者の処遇について、情報を収集すること

<事後学修> 犯罪者の処遇の在り方について、考えをまとめておくこと

第9回 施設内処遇

<参考資料> 刑事政策学第6講第2節、犯罪学講義 pp.145-163

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
刑務所のありようについて、情報を収集すること

<事後学修> 刑務所や施設内処遇の在り方について、考えをまとめておくこと

第10回 財産刑と社会内処遇

<参考資料> 刑事政策学第3講第7節・第6講第3節、犯罪学講義 pp.126-132,164-172

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
財産刑や社会内処遇について、情報を収集すること

<事後学修> 社会における犯罪者の処遇のあり方について、考えをまとめておくこと

第11回 猶予制度

<参考資料> 刑事政策学第2講第6節・第5講第4節-第5節、犯罪学講義 pp.

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
猶予制度について、情報を収集すること

<事後学修> 刑罰・施設収容の目的やそれらの限界について、考えをまとめておくこと

第12回 刑罰の付随的効果(資格制限と恩赦)

<参考資料> 刑事政策学第4講第4節-第5節、犯罪学講義 pp.

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
刑罰の付随的効果について、情報を収集すること

<事後学修> 資格制限や恩赦の在り方について、考えをまとめておくこと

第13回 保安処分と触法精神障がい者の処遇

<参考資料> 刑事政策学第4講第1節-第3節、犯罪学講義 pp.

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
措置入院制度や医療観察制度について、情報を収集すること

<事後学修> 触法精神障がい者の処遇の在り方について、考えをまとめておくこと

第14回 犯罪被害者等への対応

<参考資料> 刑事政策学第2講第8節、犯罪学講義 pp.214-226

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
犯罪被害者等が置かれている状況について、情報を収集すること

<事後学修> 犯罪被害者等への支援策について、考えをまとめておくこと

第15回 刑事政策への市民参加

<参考資料> 犯罪学講義 pp.272-281

<事前学修> 配布されたレジュメと講義ビデオ、参考文献に目を通して内容を確認すること
刑事司法における市民参加の制度について、情報を収集すること

<事後学修> 刑事司法における自己の役割について、考えをまとめておくこと

(第15回終了後、最終試験)

(予習・復習)

* 予習(1回につき2時間程度)

(1) WebClass を用いて事前にレジュメを配布するので、あらかじめダウンロードして内容に目を通しておくこと。また併せて、YouTube で講義ビデオを配信することがあるので、それを有効に活用すること(URL は逐次指示する: URL を知る者のみ視聴可)。

(2) 「刑法」「刑事訴訟法」の基本原則を確認するとともに、テキストの該当ページに目を通しておくこと

(3) 犯罪・非行とそれに対する処分にかかわる問題について、各自で情報を収集しておくこと(インターネットを使用しても構わないが、官公庁や新聞社などが作成している信頼性の高いサイトを参照すること)。

* 復習(1回につき2時間程度)

(1) 配布資料などを基に、講義で扱った基本原則の内容を確認すること。

(2) 返却されたワークシートの問題を解きなおすこと。

(注意事項)

* 基本的に最終試験の出来具合で成績を評価するが、「平常点」として、授業への参加度などを付加的に勘案することがある。「授業の参加度」はワークシートの内容などを実質的に勘案して評価するものであり、出席回数があるまま評価の対象になることはない。

* この講義では、WebClass を用いてレジュメを事前に配布する(教室で配布するつもりはない)。また、WebClass の「アンケート」を用いて授業中に受講者に対するアンケートや問題演習を行うことがあり、その場合、問題やアンケートにはスマートフォン等で回答することになる(とくに、オンラインで開講する場合は、問題への回答を web 上に入力してもらうことになる)。そのほかにも、レジュメを閲覧・プリントアウトしたり web ページを閲覧したりできる PC 環境を受講者が各自で確保しておくことが望ましい。

* 授業内レポートや「演習問題」の答えは担当教員がチェックして本人に返却する。ただし、オンラインで問題に回答してもらった場合は、その内容を個別にチェックできないので、授業中の解説を手掛かりとして自己採点をする事。

【テキスト】

(教材)

* OSU-Port (WebClass) を用いてレジュメを事前に配布する(教室で配布するつもりはない)。また、必要に応じて、自習用に教科書と YouTube 動画 (URL はレジュメに記載あり: URL を知る者のみ参照可) を参照してほしい。

* 授業中に条文の参照が必要となる場面が頻繁に出てくるため、六法を必ず持参すること (小型のものでかまわないが、「刑事訴訟法」・「刑事収容施設及び被収容者の処遇に関する法律」などを搭載した最新版を用意すること)。

(教科書)

刑事政策学 武内謙治／著 本庄武／著 日本評論社

【参考図書】

- ・犯罪白書 令和 5 年版 法務省 法務総合研究所／編 日経印刷
(https://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html)
- ・犯罪学講義 第 3 版 上田寛／著 成文堂

【成績評価の方法】

試験: 基本的に学期末試験の成績で評価する(60%)

受講態度: 「平常点」として、授業への参加度などを付加的に勘案することがある。「授業の参加度」は授業内レポートの内容などを実質的に勘案して評価するものであり、出席回数そのまま評価の対象になることはない。(40%)

対面授業				04006	
授業科目名:現代刑事法			担当教員氏名:白井 諭		
Modern Criminal Law					
履修年次 2～4	2単位	後期	1コマ		
<p>【授業の目的】 この講義は法学部の専門科目である。この講義では、公職選挙法や民法などの改正にあわせて、少年法の適用可能年齢を「20歳未満」から「18歳未満」に引き下げる動きが生じている昨今の動向に合わせて、若年者に対する刑事法制と「少年法」の在り方を参加者全員で考えていくことにしたい。 (1)社会や刑事法に対する関心・問題意識を持ち、それに従い自主的に勉学を進めることができる。 (2)少年法の基本原理の概要を他者に説明することができる。 (3)社会で起こっている刑事事件につき、意見を理性的に述べるができる。</p> <p>【授業内容】 《授業方法》 * 受講者にはあらかじめレジュメに目を通してもらう。授業時間の前半部分で問題に取り組んでもらい、後半部分で問題に関する解説をする。対面での講義(問題の解説)を予定しているが、状況に応じて(例えば受講者が収容可能人数を超えた場合や構内への立入が制限された場合)、zoomを用いて(又は zoom と対面とで並行して)開講することがある。</p> <p>《テーマ》若年者に対する刑事法制と「少年法」 最近、マスメディアなどで少年犯罪がクローズアップされ、そのたびに凶悪犯罪をおかした少年に厳正な制裁を下すことを求める世論が強まっている。また、公職選挙法や民法などの改正にあわせて、少年法の適用可能年齢を「20歳未満」から「18歳未満」に引き下げる動きが生じている(法制審議会における最近の議論では、ひとまず少年法の適用年齢を従来どおり「20歳未満」とすることになったが、それでもなお犯罪少年に対する厳罰化は推し進められようとしている)。 しかし、非行少年に厳正な刑罰を科すことで本当に事態は改善するのだろうか?近代社会では、少年非行には成人とは異なる対応が必要だという認識から「少年法」(又はそれに代わる法律)の下、非行少年に対して特別な措置を講じてきた。そもそも子どもの成長発達には保護者など周りの大人が責任を負わなければならないものであり、非行少年に対していかなる処遇が必要・適切であるかを考えることは刑事法制や社会全体のあるべきかたちを見出していくことにつながるであろう。 そこで、この講義では、若年者に対する刑事法制と「少年法」の在り方について参加者全員で考えていくことにしたい。</p> <p>《授業計画》 第1回 「少年法」の目的と特徴 <事前学修> 配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること 少年法の目的と特徴について情報を収集しておくこと <事後学修> 少年法の目的について、自分の考えをまとめておくこと</p> <p>第2回 「少年法」の対象 <事前学修> 配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること 少年法の対象年齢引下げの議論について、情報を収集しておくこと <事後学修> 少年法の対象年齢引下げの是非について、自分の考えをまとめておくこと</p>					

第3回 「少年法」の歴史と基本原則

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
少年非行の現状について、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞少年非行の現状を改善する方策について、自分の考えをまとめておくこと

第4回 少年非行の発見と調査・捜査活動

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
少年非行に対する警察等の役割について、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞少年非行に対する警察等の役割について、自分の考えをまとめておくこと

第5回 家庭裁判所の役割

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
家庭裁判所について、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞少年司法における家庭裁判所の役割について、自分の考えをまとめておくこと

第6回 少年審判の原理・原則

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
少年審判について、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞少年審判の在り方について、自分の考えをまとめておくこと

第7回 非行事実と要保護性の認定

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
少年審判について、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞非行少年に対する処分決定の在り方について、自分の考えをまとめておくこと

第8回 少年司法における付添人の役割

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
少年司法における弁護士の役割について、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞少年司法における弁護士の役割について、自分の考えをまとめておくこと

第9回 少年司法における検察官の役割

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
少年司法における検察官の役割について、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞少年司法における検察官の役割について、自分の考えをまとめておくこと

第10回 少年司法における被害者等の役割

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
少年司法における被害者等の役割について、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞少年司法における被害者等の役割について、自分の考えをまとめておくこと

第11回 少年審判の終局決定

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
非行少年に対する処分について、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞非行少年に対する処分について、自分の考えをまとめておくこと

第12回 非行少年の保護処分

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
少年院や保護観察などについて、情報を収集しておくこと

＜事後学修＞非行少年に望ましい処分の在り方について、自分の考えをまとめておくこと

第13回 非行少年の刑事手続

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
刑事手続の流れと基本原則について、情報を収集しておくこと

第 14 回 少年に対する刑事処分

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
刑事手続の流れと基本原則について、情報を収集しておくこと

第 15 回 少年司法と国際準則

＜事前学修＞配布されたレジュメと参考文献に目を通して内容を確認すること
＜事後学修＞非行少年に望ましい処分の在り方について、自分の考えをまとめておくこと

(第 15 回終了後に最終試験を実施する予定)

(予習・復習)

* 予習(1回につき2時間程度)

- (1)「刑法」「刑事訴訟法」「少年法」の基本原則を確認しておくこと。
- (2)事前に OSU-Port(WebClass)を用いてレジュメを配布するので、目を通しておくこと。
- (3)題材とする具体的な問題について、各自で情報を収集しておくこと(インターネットを使用しても構わないが、官公庁や新聞社などが作成している信頼性の高いサイトを参照すること)。

* 復習(1回につき2時間程度)

配布資料などを基に、講義で扱った基本原則の内容を確認すること。

(注意事項)

* 基本的に最終試験の出来具合で成績を評価するが、「平常点」として、授業への参加度などを付加的に勘案することがある。「授業の参加度」はワークシートの内容などを実質的に勘案して評価するものであり、出席回数がそのまま評価の対象になることはない。

* この講義では、WebClass を用いてレジュメを事前に配布する(教室で配布するつもりはない)。また、OSU-Port(WebClass)を用いて授業中に受講者に対するアンケートや問題演習を行うことがある。その場合、問題やアンケートにはスマートフォン等で回答することになる(とくに、オンラインで開講する場合は、問題への回答を web 上に入力してもらうことになる)。そのほかにも、レジュメを閲覧・プリントアウトしたり web ページを閲覧したりできる PC 環境を受講者が各自で確保しておくことが望ましい。

* ワークシートは担当教員がチェックして本人に返却する。オンラインで回答してもらった問題は授業中に講評する。

【テキスト】

* 事前に配布するレジュメに基づいて講義を進める。ただし、頻りに条文を確認する場面があるため、必ず紙媒体の六法を持参すること。

【参考図書】

- ・犯罪白書 令和 5 年版 法務省 法務総合研究所／編
(https://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html)
- ・ビギナーズ少年法 第3版補訂第2版 守山正／著・編集 後藤弘子／著・編集 成文堂

【成績評価の方法】

試験:基本的に学期末試験の成績で評価する。(60%)

レポート:「平常点」として、ワークシートの内容などを付加的に勘案することがある。(25%)

受講態度:「平常点」として、授業への参加度などを付加的に勘案することがある。(15%)

対面授業			04007	
授業科目名:労働経済学			担当教員氏名:三谷 直紀	
Labor Economics				
履修年次 2~4	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 労働経済学の理論について説明するとともに、実証研究の結果を踏まえて、雇用、賃金、人的資本投資等の政策的課題について論じる。とりわけ、少子高齢化、技術進歩などの構造変化と労働市場の課題について講ずる。 受講生が受講終了までに次のようなことができることが到達目標である。 1.労働経済学の基本的な概念を理解し、説明できる。 2.労働市場の基本的な機能について理解し、説明できる。 3.新聞等で取り上げられる身近な労働・雇用問題について理解し、説明できる。 4.基本的な労働統計について理解し、分析に用いることができる。</p>				
<p>【授業内容】 この講義では、授業中に Google Form を使ってアンケートを実施し、集計データから留保賃金や失業率等を計算する作業を各自行ってもらいます。(アクティブラーニング)</p> <ol style="list-style-type: none"> 労働経済学とは何か？ 労働市場、労働統計、労働市場の特殊性と労働政策 (事前学修:なし、事後学修:配布資料を読み復習する。) 労働供給(1) 労働供給行動、なぜ労働力人口は変化するか、ライフサイクルと留保賃金 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) 職探しの理論 求人情報、職探しの理論 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) 労働供給(2) 労働時間の選択、効用最大化問題、所得の変化と労働時間、労働供給曲線、引退と年齢 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) 短期の労働需要 人を雇う理由、短期の企業経営、独占企業の労働需要 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) 長期の労働需要 労働時間と企業への貢献度、労働時間の趨勢、労働時間短縮、労働時間と労働者数 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) 労働市場 労働市場の供給と需要、労働市場の効率性、買い手独占の労働市場 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) 補償賃金仮説 賃金格差の実態、仕事の内容や性質と補償賃金、仕事に対する需要と供給 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) 差別の経済学 男女間賃金格差、統計的差別、日本における女性活用 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) 賃金はどう支払われる 賃金の支払い形態、年功賃金、退職金 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) どうして大学へ進学するの？ 大学進学の原因、経済学的視点から大学進学を考える、進学率の上昇 (事前学修:前回配布資料を再度読む。事後学修:配布資料を読み復習する。) 				

12. 人材開発

賃金プロフィールと教育訓練、誰が費用を負担するのか、正規労働者と非正規労働者の境界
(事前学修: 前回配布資料を再度読む。事後学修: 配布資料を読み復習する。)

13. 失業

失業率の定義、性・年齢別失業率、失業の発生理由、自然失業率、雇用の創出と消失
(事前学修: 前回配布資料を再度読む。事後学修: 配布資料を読み復習する。)

14. 労使関係

労使関係、労働組合の存在、労働組合組織率、労働組合の役割
(事前学修: 前回配布資料を再度読む。事後学修: 配布資料を読み復習する。)

15. 労働市場と働き方の未来

労働供給の変化、労働需要の変化、市場の変化
(事前学修: 前回配布資料を再度読む。事後学修: 配布資料を読み復習する。)

16. 定期試験

(予習・復習)

講義 1 回当たりの予習時間は 2 時間とし、教科書の当該箇所を読んでおく。復習時間はおおむね 2 時間とする。講義内容を復習し、理解を深める。

【テキスト】

(教材)

厚生労働省、総務省統計局、OECD などの政府・国際機関の Web ページから労働統計のデータや労働政策に関する情報をダウンロードして教材として使う。

(教科書)

基本講義 労働経済学 阿部正浩／著 新世社

【参考図書】

労働経済 清家篤／著 風神佐知子／著 東洋経済新報社

【成績評価の方法】

試験: 定期試験 (67%)

小テスト: 講義期間の中頃に中間試験を行う。(33%)

対面授業				04008
授業科目名:ミクロ経済学 B			担当教員氏名:熊代 和樹	
Microeconomics B				
履修年次 2~4	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 経済主体の行動に関わる理論およびその現実社会への応用について講義する。 経済学部経済学科に係る専門科目として、本学の教育目標である「専門学術の振興」に貢献することを授業目標とする。 受講生が受講終了までに次のようなことができるようになることが到達目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学の基礎理論を理解し、説明できるようになる。 2. ミクロ経済学のツールを使って、社会が直面する経済問題を分析し、対応策を考えることができる。 				
<p>【授業内容】 ◎ この授業は原則として対面授業を実施する。ただし学校閉鎖時や未入国の学生がいる場合等、オンライン授業が必要となった場合には Zoom によるリアルタイム授業と Youtube による録画配信を併用する。 ◎ 資料の配布、課題提出、出欠確認等で WebClass を使用する。 ◎ 毎回レポート課題を課す。</p> <p>この授業では経済学の応用分野の基礎となるミクロ経済学の基本的な考え方や近年の発展について講義する。 ミクロ経済学とは、経済や社会に登場する個々の主体(消費者、企業など)の行動に焦点を当て、どのような意思決定が行われるのか、どのような意思決定を行うべきなのか、そして個々の行動が社会でどのような結果をもたらすのかを考えるための理論である。</p> <p>概ね各講義で教科書の1章分を扱う。ただし、進捗状況に応じてスケジュールを変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の原理と実践、方法 事前学習:教科書の1章と2章を熟読する 事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く 2. 最適化 事前学習:教科書の3章を熟読する 事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く 3. 需要、供給と均衡 事前学習:教科書の4章を熟読する 事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く 4. 消費者とインセンティブ 事前学習:教科書の5章を熟読する 事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く 5. 生産者とインセンティブ 事前学習:教科書の6章を熟読する 事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く 6. 完全競争と見えざる手 事前学習:教科書の7章を熟読する 事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く 7. 外部性と公共財 事前学習:教科書の9章を熟読する 事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く 				

8. 政府の役割

事前学習:教科書の10章を熟読する

事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く

9. 生産要素市場

事前学習:教科書の11章を熟読する

事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く

10. 独占

事前学習:教科書の12章を熟読する

事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く

11. ゲーム理論と戦略的行動

事前学習:教科書の13章を熟読する

事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く

12. 時間とリスクのトレードオフ

事前学習:教科書の15章を熟読する

事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く

13. 情報の経済学

事前学習:教科書の16章を熟読する

事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く

14. オークションと交渉

事前学習:教科書の17章を熟読する

事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く

15. 社会経済学

事前学習:教科書の18章を熟読する

事後学習:講義資料を見直し、関連する問題を解く

(予習・復習)

復習に重点を置いて授業外学習をすることを推奨する。

予習(1時間):教科書の該当箇所を読む。

復習(3時間):配布資料や教科書、ノートを見直し、練習問題を解く。

(注意事項)

◎ スライドを使用して授業を行うが、必要に応じて板書を併用するのでノートやルーズリーフなどを持参すること。

◎ 経済学は積み重ねが重要な学問なので毎回授業に出席すること。やむを得ず欠席した場合は講義掲示板から資料を入手し、教科書を見ながら内容を確認しておくこと。

◎ 中間レポート・確認レポートについては実施後に解説する。

◎ 出席はWebClassを使用して確認するのでスマートフォンを持参すること。

【テキスト】

アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学 = Acemoglu Laibson List Microeconomics

Acemoglu,Daron,1967- Laibson,DavidI List,JohnA.,1968- ほか/著 東洋経済新報社

【参考図書】

・ミクロ経済学 芦谷政浩/著 有斐閣

・ミクロ経済学の力 神取道宏/著 日本評論社

・[改訂版]経済学で出る数学 尾山大輔/著・編集 安田洋祐/著・編集 日本評論社

【成績評価の方法】

試験:期末試験(40%)

レポート:中間レポート20%(学期中1回) 確認レポート15%(15回)

中間レポート・確認レポートについては実施後に解説する。

受講態度:練習問題(25%)

WebClass上で練習問題集を配布し、日々の自己学習の取り組みを評価する。

対面授業				04009
授業科目名:国際経済学 I			担当教員氏名:山下 賢二	
International Economics 1				
履修年次 2~4	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 国際貿易の基礎理論を中心に展開する。貿易の発生理由、そのメリットを講義する。また、貿易理論のもつミクロ経済学の応用としての側面も講義する。</p> <p>受講生が受講終了までに次のようなことができるようになることが到達目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.貿易の持つ経済的意味を理解できる 2.基本的な貿易理論の基本的な部分を習得できる 3.自由貿易、グローバル化のメリットを理解できる 4.ミクロ経済学をより深く理解できる 				
<p>【授業内容】 「講義方法」 本講義は原則として対面方式で行う。 ただし、学校閉鎖時や受講生に未入国の学生がいる場合は WebClass と Zoom を介してのオンライン方式あるいはハイブリッド方式とする。 また、対面方式であれ、オンライン方式であれ、毎回、課題を提出すること。定められた期限までに WebClass から返信すること。課題提出をもって出席とみなす。</p> <p>01.国際経済学とは何か？(chap.1) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>02.国際貿易の基本 貿易の発生理由と仕組み(chap.2) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>03.伝統的貿易の理論 リカード・モデル(1)比較優位と絶対優位(chap.3) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>04.伝統的貿易の理論 リカード・モデル(2)部分均衡分析(1)(chap.3) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>05.伝統的貿易の理論 リカード・モデル(3)部分均衡分析(2)(chap.3) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>06.伝統的貿易の理論 リカード・モデル(4)一般均衡分析(chap.3) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>07.伝統的貿易の理論 ヘクシャー・オリーモデル(1)リカード・モデルとの比較(chap.4) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>08.伝統的貿易の理論 ヘクシャー・オリーモデル(2)ヘクシャー・オリーの定理(chap.4) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>09.伝統的貿易の理論 ヘクシャー・オリーモデル(3)要素価格均等化定理(chap.4) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p>				

- 10.伝統的貿易の理論 ヘクシャー・オリーンモデル(4)レオンチェフの逆説(chap.5)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 11.貿易政策の理論 自由貿易と保護貿易(1)自由貿易下の経済と関税のある経済との厚生比較(chap.6)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 12.貿易政策の理論 自由貿易と保護貿易(2)関税・輸出税・輸入補助金・輸出補助金の効果(chap.6)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 13.新しい貿易理論(1)クルーグマン・モデル(新貿易理論)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 14.新しい貿易理論(2)メリッツ・モデル(新々貿易理論)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 15.まとめ 総復習
 事前学修:当講義のノートを全部を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 16.定期試験

(予習・復習)

予習(1.5時間):テキストの当該箇所を読んでおくこと

復習(2.5時間):講義ノートを読み返すこと

(注意事項)

毎回の課題提出と出席に対する評価(50%)、試験あるいは試験回の課題(試験相当)(50%)

※課題へのフィードバック回を設ける。

※9回以下の出席しかない者、試験未受験者は成績評価対象外

【テキスト】

・毎回 WebClass から配信する課題

・クルーグマン国際経済学 理論と政策 [原書第10版]上:貿易編 山形浩生/翻訳 守岡桜/翻訳 丸善出版

【参考図書】

新版経済学辞典 辻正次/著・編集 竹内信仁/著・編集 柳原光芳/著・編集 中央経済社

※経済学用語の説明が詳しい。

【成績評価の方法】

試験:対面にて筆記試験にて行う。(50%)

レポート:WebClassにて記述式で提出する。(30%)

受講態度:主に出席回数で判断する。(18%)

その他:質疑応答や講義への貢献度を見る。(2%)

対面授業			04010	
授業科目名: 国際経済学Ⅱ			担当教員氏名: 山下 賢二	
International Economics 2				
履修年次 2~4	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 開放経済下でのマクロ経済について講義する。その中で、国際収支の概念、為替レートの決定理論、開放経済下での経済政策の効果を講義する。</p> <p>受講生が受講終了までに次のようなことができるようになることが到達目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開放経済下でのマクロ経済学(国際マクロ経済学)の基礎を理解できる 2.新旧(BPM5 と BPM6)を理解できる 3.為替レートの決定理論を理解できる 4.開放経済下でのマクロ経済政策の効果を理解できる 				
<p>【授業内容】 「講義方法」 本講義は原則として対面方式で行う。 ただし、学校閉鎖時や受講生に未入国の学生がいる場合は WebClass と Zoom を介してのオンライン方式あるいはハイブリッド方式とする。 また、対面方式であれ、オンライン方式であれ、毎回、課題を提出すること。定められた期限までに WebClass から返信すること。課題提出をもって出席とみなす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. 国際マクロ経済学とは何か?(chap.1) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと 02. 国際収支統計表(1)国際収支表の概要、BPM5(旧版)の理解(chap.1) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと 03. 国際収支統計表(2)BPM6(新版)の理解、BPM5 と BPM6 の比較(chap.1 とプリント) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと 04. 為替レートと国民所得(chap.1) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと 05. 為替レートの決定理論(1)為替レートとは何か、長期の為替レート決定理論(chap.2,4) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと 06. 為替レートの決定理論(2)短期の為替レート決定理論(1)アブソープションアプローチ(1)(chap.6) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと 07. 為替レートの決定理論(3)短期の為替レート決定理論(2)アブソープションアプローチ(2)(chap.6) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと 08. 為替レートの決定理論(4)短期の為替レート決定理論(3)弾力性アプローチ(chap.4) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと 				

09. 為替レートの決定理論(5)短期の為替レート決定理論(4)ポートフォリオ・バランスアプローチ (chap.5)

事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと

事後学修:講義ノートを読み直しておくこと

10. 為替レートの決定理論(6)短期の為替レート決定理論(5)マンデル・フレミングアプローチ (chap.7)

事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと

事後学修:講義ノートを読み直しておくこと

11. 国際マクロ経済政策(1)IS-LM-BP 分析(各曲線の導出(chap.7))

事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと

事後学修:講義ノートを読み直しておくこと

12. 国際マクロ経済政策(2)IS-LM-BP 分析(変動相場制での小国のケースの財政・金融政策) (chap.7)

事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと

事後学修:講義ノートを読み直しておくこと

13. 国際マクロ経済政策(3)IS-LM-BP 分析(固定相場制での小国のケースの財政・金融政策) (chap.7)

事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと

事後学修:講義ノートを読み直しておくこと

14. 国際マクロ経済政策(4)IS-LM-BP 分析(資本移動が不完全なときの財政・金融政策) (chap.7)

事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと

事後学修:講義ノートを読み直しておくこと

15. 総復習

事前学修:当講義のノートを全部を読んでおくこと

事後学修:講義ノートを読み直しておくこと

16.定期試験

(予習・復習)

予習(1.5時間):テキストの当該箇所を読んでおくこと

復習(2.5時間):講義ノートを読み返すこと

(注意事項)

毎回の課題提出(50%)、試験あるいは試験回の課題(試験相当)(50%)

※課題へのフィードバック回を設ける。

※9回以下の出席しかない者、試験未受験者は成績評価対象外

【テキスト】

・毎回 WebClass から講義前に送付する講義資料

・国際経済学 = International Finance 岩本武和／著 ミネルヴァ書房

【参考図書】

新版経済学辞典 辻正次／著・編集 竹内信仁／著・編集 柳原光芳／著・編集 中央経済社

※経済学用語の説明が詳しい。

【成績評価の方法】

試験:対面にて筆記試験にて行う。(50%)

レポート:WebClass にて記述式で提出する。(30%)

受講態度:主に出席回数で判断する。(18%)

その他:質疑応答や講義への貢献度を見る。(2%)

対面授業				04011
授業科目名: マクロ経済学 B			担当教員氏名: 山下 賢二	
Macroeconomics B				
履修年次 2~4	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 マクロ経済ならびにマクロ経済理論の基本を講義する。 受講生が受講終了までに次のようなことができるようになることが到達目標である。 1.マクロ経済学の基本的な部分を習得できる 2.現実のマクロ経済を観察するにあたって、理論的な視点に立って思考できる 3.経済学のその他応用分野を学習するための基礎の確立できる</p>				
<p>【授業内容】 「講義方法」 本講義は原則として対面方式で行う。 ただし、学校閉鎖時や受講生に未入国の学生がいる場合は WebClass と Zoom を介してのオンライン方式あるいはハイブリッド方式とする。 また、対面方式であれ、オンライン方式であれ、毎回、課題を提出すること。定められた期限までに WebClass から返信すること。課題提出をもって出席とみなす。</p> <p>※入…入門編（テキスト）</p> <p>01.マクロ経済学とは何か？（入 chap.1） 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>02.マクロ経済学のデータ(1)GDP(1)全体像(入 chap.1、2) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>03.マクロ経済学のデータ(2)GDP(2)計算(入 chap.1、2) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>04.マクロ経済学のデータ(3)物価水準、失業率(入 chap.1、2) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>05.経済循環図(1)三面等価の法則(1)全体図・生産面(供給面)・支出面(需要面)(入 chap.3) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>06.経済循環図(2)三面等価の法則(2)分配面(入 chap.3) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>07.マクロ経済学の理論の概要 マクロ経済学における長期と短期(入 chap.3) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>08.長期の理論(1)財市場と労働市場(入 chap.3) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>09.長期の理論(2)金融市場(入 chap.4) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p> <p>10.長期の理論(3)長期における政策の効果(1)財政政策(入 chap.3) 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと</p>				

- 11.長期の理論(4)長期における政策の効果(2)金融政策・古典派の二分法(入 chap.4)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 12.短期の理論(1)短期理論の概要・IS-LM 分析の概要(入 chap.7、8)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 13.短期の理論(2) IS-LM 分析、IS 曲線の導出、短期の財市場と労働市場(入 chap.7、8)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 14.短期の理論(3)IS-LM 分析、LM 曲線の導出、短期の金融市場(入 chap.7、8)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 15.短期の理論(4)IS-LM 分析(政策分析)(入 chap.9)
 事前学修:教科書の当該箇所を読んでおくこと
 事後学修:講義ノートを読み直しておくこと
- 16.定期試験

※「国際マクロ経済学」に関しては、「国際経済学Ⅱ」で取り扱う。

(予習・復習)

予習(1.5時間):テキストの当該箇所を読んでおくこと

復習(2.5時間):講義ノートを読み返すこと

(注意事項)

毎回の課題提出(50%)、試験あるいは試験回の課題(試験相当)(50%)

※課題へのフィードバック回を設ける。

※9回以下の出席しかない者は成績評価対象外

【テキスト】

・毎回 WebClass から講義前に送付する講義資料

・マンキュー マクロ経済学Ⅰ 入門篇(第4版) N・グレゴリー・マンキュー／著 足立英之／翻訳 地主敏樹／翻訳 中谷武／翻訳 柳川隆／翻訳 東洋経済新報社

電子版あり マンキューマクロ経済学<1> 第4版 入門篇(電子版/PDF)

【参考図書】

新版経済学辞典 辻正次／著・編集 竹内信仁／著・編集 柳原光芳／著・編集 中央経済社

【成績評価の方法】

試験:対面にて筆記試験にて行う。(50%)

レポート:WebClass にて記述式で提出する。(30%)

受講態度:主に出席回数で判断する。(出席回数-9)×3点(18%)

その他:質疑応答や講義への貢献度を見る。(2%)

※9回以下の出席しかない者は成績評価対象外

対面授業			04012	
岡山経営者論 I			担当教員氏名:陳 惠貞	
Management in Okayama 1				
履修年次 1~4	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 経営分野で活躍されている経営者の講義を受講することにより、経営理論、経営手法について、アクティブラーニングを含めて習得し、概要が説明できるようにすることを到達目標とする。</p> <p>経営理論と経営手法の習得</p> <p>(1)企業経営の方針、戦略、戦術について、概要が説明できるようにする。 (2)顧客指向の経営について、概要が説明できるようにする。 (3)地域社会への貢献について、概要が説明できるようにする。 (4)問題に対して、グループで提案し、まとめをして発表できるようにする。</p>				
<p>【授業内容】 本講義は、対面講義で行います。 講義内容の関係上、対面もしくはオンラインの際は「日本国内」のみとします。</p> <p>また、本学が閉鎖された場合、オンライン講義(Zoom)になります。 講義の連絡事項は、講義前日までに「WebClass-タイムライン」を用いてお知らせします。 なお、新型コロナウイルスの影響により、アクティブラーニングが行えないこともあります。</p> <p>講義方式:講義内容をまとめて、レポートを作成して提出すること。 対面・オンライン授業とも、毎回レポート提出があります。</p> <p>1. 4月08日(月) 岡山商科大学 担当教員(西) 事前学修:シラバスを読む 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>2. 4月15日(月) 岡山トヨタ自動車(株) 代表取締役社長 梶谷俊介 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>3. 4月22日(月) 岡山トヨタ自動車(株) 代表取締役社長 梶谷俊介 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>4. 5月1日(水) サンラヴィアン 代表取締役社長 占部守弘 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>5. 5月13日(月) サンラヴィアン 代表取締役社長 占部守弘 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>6. 5月20日(月) 税理士法人パートナーズ 代表社員 川本 洋 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p>				

<p>7. 5月27日(月) 税理士法人パートナーズ 代表社員 川本 洋 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>8. 6月03日(月) (株)真庭運創研 代表取締役社長 小林一昭 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>9. 6月10日(月) (株)佐田建美 代表取締役社長 佐田時信 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>10. 6月17日(月) クラカグループ・倉敷青果(株) 取締役・カット野菜部部长 寺田幸司 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>11. 6月24日(月) 邦美丸 漁師 富永邦彦 様・富永美保 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>12. 7月01日(月) (株)アイリス 代表取締役社長 石川哲也 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>13. 7月08日(月) クラカグループ・倉敷青果(株) 取締役・カット野菜部部长 寺田幸司 様 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>14. 7月16日(火) 岡山商科大学 担当教員(渡邊) 事前学修:配布資料を確認する 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>15. 7月22日(月)岡山商科大学 担当教員(陳) 事前学修:配布資料を確認する 事後学修:講義内容を整理する</p>
<p>【テキスト】 プリントを配布します(講師によって配布しない場合もあります)</p>
<p>【参考図書】 適宜指示をする</p>
<p>【成績評価の方法】 毎回の講義内容について、レポートを作成して提出します。 提出内容を講義担当教員がチェック・評価し、15回の提出内容の評価から、成績評価を行います。合計点100点です。 なお、評価(方法)手段の評価(%)も含まれますので留意のこと。 提出したレポート・課題のフィードバックは講義やWebclassを通じて適宜行う。 ※毎回、講義の始めに各自のスマートフォンを用いて出席登録を行うので、スマホを持参すること。</p>

対面授業			04013	
岡山経営者論Ⅱ			担当教員氏名:陳 恵貞	
Management in Okayama 2				
履修年次 1~4	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 経営分野で活躍されている経営者の講義を受講することにより、経営理論、経営手法について、アクティブラーニングを含めて習得し、概要が説明できるようにすることを到達目標とする。 経営理論と経営手法の習得 (1)企業経営の方針、戦略、戦術について、概要が説明できるようにする。 (2)顧客指向の経営について、概要が説明できるようにする。 (3)地域社会への貢献について、概要が説明できるようにする。 (4)問題に対して、グループで提案し、まとめをして発表できるようにする。</p>				
<p>【授業内容】 本講義は、対面講義で行います。 講義内容の関係上、対面もしくはオンラインの際は「日本国内」のみとします。</p> <p>また、本学が閉鎖された場合、オンライン講義(Zoom)になります。 講義の連絡事項は、講義前日までに「WebClass-タイムライン」を用いてお知らせします。 なお、新型コロナウイルスの影響により、アクティブラーニングが行えないこともあります。</p> <p>講義方式:講義内容をまとめて、レポートを作成して提出すること。 対面・オンライン授業とも、毎回レポート提出があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 9月24日(火) 岡山商科大学 担当教員(西) 事前学修:シラバスを読む 事後学修:講義内容を整理する 9月30日(月) 岡山商科大学 担当教員(渡邊) 事前学修:アクティブラーニングについて調べる 事後学修:講義内容を整理する 10月07日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する 10月17日(木)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する 10月21日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する 10月30日(水) 外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する 				

<p>7. 11月11日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>8. 11月18日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>9. 11月25日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>10. 12月02日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>11. 12月09日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>12. 12月16日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>13. 12月23日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>14. 1月06日(月)外部講師 事前学修:ホームページや会社概要を調べる 事後学修:講義内容を整理する</p> <p>15. 1月14日(火)岡山商科大学 担当教員(陳) 事前学修:配布資料を確認する 事後学修:講義内容を整理する</p>
<p>【テキスト】 プリントを配布します(講師によって配布しない場合もあります)</p>
<p>【参考図書】 適宜指示をする</p>
<p>【成績評価の方法】 毎回の講義内容について、レポートを作成して提出します。 提出内容を講義担当教員がチェック・評価し、15回の提出内容の評価から、成績評価を行います。合計点100点です。 なお、評価(方法)手段の評価(%)も含まれますので留意のこと。 提出したレポート・課題のフィードバックは講義やWebclassを通じて適宜行う。 ※毎回、講義の始めに各自のスマートホンを用いて出席登録を行うので、スマホを持参すること。</p>

対面授業				04014
授業科目名:簿記論 I			担当教員氏名:陶 静	
Bookkeeping 1				
履修年次 1~4	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 本講義は複式簿記の基礎知識を教え、その上必要な実技(会計仕訳)を習得してもらう。さらに商業簿記の基本問題を解けるように、反復練習をする。 受講生が授業修了までに次のようなことができることが到達目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複式簿記の基礎的な知識を身につけること。 2. 商業簿記の基礎問題を解けるようになること。 				
<p>【授業内容】 本講義は基本教室にて対面講義を行う。対面の際、毎回課題提出(レポート或いは練習問題)があります。 新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、やむをえず学校閉鎖になった場合はオンライン講義になる。 オンライン講義になる場合は講義日前日までに大学の WebClass を通して講義資料を配布し、当日 ZOOM を使って講義を行う予定である。</p> <p>第 1 回 イントロダクション(講義の進め方)、 事前学修:日商簿記初級について調べる 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 2 回 簿記の基礎(第1章) 事前学修:第1章の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 3 回 商品売買(第2章) 事前学修:第2章の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 4 回 現金・預金(第3章) 事前学修:第3章の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 5 回 手形と電子記録債権(債務)(第4章) 事前学修:第4章の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 6 回 貸付金・借入金(第5章) 事前学修:第5章の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 7 回 中間評価テストおよび解答解説(第1から5章まで) 事前学修:第1から5章までの内容を再確認 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 8 回 その他の取引(第6章) 事前学修:第6章前半の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 9 回 固定資産(第7章) 事前学修:第6章後半の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 10 回 租税公課と消費税・資本金(第8章) 事前学修:第7章の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p>				

<p>第 11 回 帳簿への記入(第9章) 事前学修:第8章の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 12 回 試算表(第 10 章) 事前学修:第9章の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 13 回 伝票と仕訳日計表(第 11 章) 事前学修:第 10 章の内容を読み込み 事後学修:テキストと配付資料を再確認</p> <p>第 14 回 期末評価テストおよび解答解説 事前学修:第1から 11 章まで内容を復習する 事後学修:テスト内容の再確認</p> <p>第 15 回 総復習および総まとめ(第1から 11 章まで) 事前学修:第1から 11 章までの内容を再確認する 事後学修:テスト模範回答再確認</p> <p>進展状況により, 授業計画を変更する可能性がある。</p> <p>(予習・復習) 予習(1.5 時間程度)テキストの該当箇所を読んで、問題点(疑問点)を整理しておくこと。 復習(2.5 時間程度)講義の内容をもう一度整理し、自分の理解度と課題を整理すること。</p> <p>(注意事項) この講義は「日商簿記検定」の対策講義ではない。 出席点は付けない。ただし、講義中に積極的に発言、討論に参加する受講生には加点を行う。 反対に講義中に私語、携帯遊ぶ、居眠りなど講義に妨げる行為をする受講生には減点を行う。 講義中で行った小テスト、中間評価テスト、期末評価テストなどの解説についてはその場でする。講義後に模範解答を web-class に掲載する。</p> <p>【テキスト】 スッキリわかる日商簿記初級 TAC 株式会社出版事業部</p> <p>【参考図書】</p> <p>【成績評価の方法】 試験:期末評価テスト(第 14 回)(60%) 小テスト:中間評価テスト(第 7 回)(40%)</p>
--

大学コンソーシアム岡山 単位互換履修科目履修願

所属大学の 受付番号	
受入大学の 受付番号	

* 学生は太枠内のみ記入

岡山商科大学長 殿

提出日	年	月	日
ふりがな			
氏名			印



この度、貴学において単位互換履修生として下記の科目を履修したいので、許可をお願いいたします。

所属大学等								
学部・学科・学年	学部			学科		年		
学生番号		性別	生年 月日	西暦 年				
		男・女		昭和・平成 年 月 日				
現住所	〒			-		Tel () -		

* 履修受付締切日：前期：3月29日(金)まで 後期：9月11日(水)まで

* 区分(教養/専門)：開講大学の区分を示しています。受講生の所属大学における区分については、申込みの際に所属大学で確認してください。

No	授業科目	区分	担当教員	単位	開講期	配当学年	備考	曜日・時限	履修希望	評価
対面授業科目										
04001	行政法Ⅰ	専門	伊藤 治彦	2	前期	2~4	定員 20名	木 13:10~14:40		
04002	行政法Ⅱ	専門	伊藤 治彦	2	後期	2~4	定員 20名	木 13:10~14:40		
04003	民法概説	専門	倉持 弘	2	前期	1~4	定員 20名	月 9:00~10:30		
04004	民法総則	専門	倉持 弘	2	後期	2~4	定員 20名	金 15:00~16:30		
04005	刑事政策	専門	白井 諭	2	前期	2~4	定員 20名	月 13:10~14:40		
04006	現代刑事法	専門	白井 諭	2	後期	2~4	定員 20名	火 15:00~16:30		
04007	労働経済学	専門	三谷 直紀	2	後期	2~4	定員 15名	火 13:10~14:40		
04008	ミクロ経済学B	専門	熊代 和樹	2	後期	2~4	定員 15名	水 10:50~12:20		
04009	国際経済学Ⅰ	専門	山下 賢二	2	前期	2~4	定員 15名	木 9:00~10:30		
04010	国際経済学Ⅱ	専門	山下 賢二	2	後期	2~4	定員 15名	木 9:00~10:30		
04011	マクロ経済学B	専門	山下 賢二	2	後期	2~4	定員 15名	火 9:00~10:30		

No	授 業 科 目	区 分	担当教員	単 位	開講 期	配当 学年	備 考	曜 日・時 限	履 修 希 望	評 価
対面授業科目										
04012	岡山経営者論Ⅰ	専 門	陳 惠 貞	2	前期	1～4	定員 15 名	月 15:00～16:30		
04013	岡山経営者論Ⅱ	専 門	陳 惠 貞	2	後期	1～4	定員 15 名	月 15:00～16:30		
04014	簿記論Ⅰ	専 門	陶 静	2	後期	1～4	定員 15 名	金 10:50～12:20		

写真提出枚数 (カラー, 4 cm × 3 cm, 裏面に大学名・氏名を記入する)	身分証明書用	学生原簿用	計
	0 枚	0 枚	0 枚